

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主題
平和を実現する人々には幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・平和憲法をまもり、世界に広める
・市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・女性と子どもの権利をまもる
・パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA 6

JUN. 2008

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail: office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円(送料込)
www.ywca.or.jp



世界は9条をえらび始めた

2面 記事掲載
◎ 世界会議

「ひろしまを考える旅2008」ご案内

テーマ: 「私が平和の種です」
期間: 2008年8月15日(金)~17日(日) (2泊3日)
* オプション参加の場合は3泊4日
18日朝チェックアウトになります。
* 現地集合・解散

会場・宿泊: 広島市国際青年会館 (アステールプラザ)

- プログラム: ●河野美代子さんのお話 (広島在住・産婦人科医)
●平和資料館見学
●フィールドワーク&碑めぐり
(広島市内を歩く・韓国人被爆者について考える・
似島を歩く・岩国を訪ねる・江田島を訪ねる)
●被爆証言を聴く(江種祐司さん)

オプション: 「世界遺産 宮島」観光 (17日13:00~20:00)

費用: ●中学・高校生

Table with 2 columns: 泊数/参加人数 and 費用. Includes rows for 2泊3日, 3泊4日, 2泊3日, 3泊4日, 2泊3日, 3泊4日.

申込締切: 第1次 6月30日(月) 第2次 7月15日(火)

お問合わせ・申込: 日本YWCA (担当: 仁田・根岸)

Tel: 03-3264-0661 Fax: 03-3264-0663

E-mail: office-japan@ywca.or.jp

ホームページ: www.ywca.or.jp

* 学生ボランティアを募集します。

詳しくは、ホームページをご覧ください。



「ねじれ」は正常への一歩

鮫島晋助 (東京YWCA会友・元朝日新聞記者)

4月末に行われた衆議院山口2区補欠選挙で、自民党が敗れ、民主党が議席を獲得した。自民・公明の与党が絶対多数を占める衆議院で、野党の議席が一つ増えただけの話に過ぎないのだが、昨年7月の参議院選挙で多数を野党民主進に奪われ、「ねじれ国会」の政局運営の難しさを痛感させられている福田政権にとっては、不吉な「今後の政局展開を予感させるもの」といえるだろう。
本来「ねじれ」という名詞には、「正さなければならぬ」というような、価値観を含んだ語感はないのだが、「ねじれる」という動詞になると、「ねりまがる。ねじくれる」と言っ、価値観を含み使い方も出てくる。恐らく両方の使い方も正しく、使う場所や前後の文脈によって、「正さなければならぬ」という価値観を含むこともあるだろう。マスコミや政治家が使う政治用語としての「ねじれ国会」や「衆参のねじれ」という表現にも、衆議院が与党、参議院が野党の多数という「ねじれは正さなければならぬ」という価値観を込めたニュアンスが、最近では強く出てきているように思われる。
しかし、「ねじれ国会」という政治現実、昨年7月の参議院選挙が、初めてではない。つい10年前の1998年7月、参議院選に惨敗して過半数を失った自民党は、橋本龍太郎首相辞任後の首相選挙で、衆議院では同党の小淵恵三を指名できたが、参議院は野党民主進の菅直人を指名し結局「衆議院議決優先」の憲法規定により、小淵を首相にやっつ選任した。

だが、その後の防衛庁長官事件で「閣内決議案」を突きつけられた額賀防衛庁長官が、辞任に追い込まれた。結局現在の「自民・公明連立」という政権スタイルは、政権維持のためにはこうしたねじれは何としても解消しなければならぬ、という自民党の悲願を背景として誕生したものである。
しかし、このような「自民党の悲願」を背景とした「ねじれ」の使い方は、日本の民意の表情を考えると、果たして正しいと言えるだろうか。
さきの衆議院山口2区補選で、自民党候補に2万票の大差をつけて当選した民主候補は、もっぱら「道路・医療」政策の間違い、貧困を訴えて、有権者の心をつかんだと言われている。「道路」とは、与党自民党が、補選直後の30日の衆議院本会議で、野党側の強い反対を押し切って再可決させた、ガソリン税を道路特定財源に対する問題であり「医療」とは、「消えた年金記録」や4月以降急増した「後期高齢者医療制度」などの問題である。
いずれも「生活」に密着した根が深い問題であり、簡単に解決の糸口が見えてくるとは考えられない。しかし、格差の広がりに不満を募らせている国民の目には、「もう自民党(あるいは連立)政権には、これらの難問に取り組み、解決する能力がないのではないのか?」という強い疑問や不信感が大きく広がっているように思える。
その根の広がりはずで、昨年7月の参議院選挙に現れてきた。「歴史的大敗」を喫した自民党への不信感について有権者の一人は、「長期政権の悪いところが出てきている」「(7月30日付朝日新聞朝刊社会面)と表現している。
この人は、1950年代、事実上半世紀以上続いている「自民党長期(独裁)政権」こそが、「参議院だけでなく、いずれは衆議院でも、現在の野党による多数獲得でねじれの解消(自民党の「野」を表現させた)」と言いたいのではあるまいか。
現政権側が懸念する「ねじれの解消」とは逆の意味での「解消」の機会である。衆議院解散、総選挙である。そのような政局の展開が、私の主張が読者の目に入る6月時点で実現しているとは思えないが、その時期は「なるべく早い方が望ましい」とだけ「ここでは言っておきたい。

支え、支えられ

松浦裕子

私には、結婚し東京在住の幼なじみがいる。その友が、神戸から4月にお母さん呼び寄せたので、久しぶりに会いに行った。その友に、「仕事と子育てがある中、お母さんが家事を手伝ってくれるから、助かるね」と話す。「お母さんは、家事をあまりしたことがないから、できないのよ。でも、今年の3月まで仕事し続けたから、もうゆつくりしてもらわないとね」と返ってきた。
話は、彼女の学生時代にさかのぼる。学校から帰ると、家族のご飯を作るように、千円札1枚がおいてあった。4人姉妹の長女であった彼女は、生活が苦しく朝から夜遅くまで働く両親の代わりに、「家」のことを任されていた。毎日、千円で、人数分のおかずを考えて作らなといけない。そんなプレッシャーの日々を送っていたらしい。私はそのような事情に気づきませず、母のいなかった私は、当時、彼女の家で、よく料理を覚えてもらい、そのままこ馳走になったものだ。
私は、ここにキリスト者の生き方を感じた。自分の背負っている重荷が重くても、いと小さきものに、快く時間とお金を費やすこと。
YWCAは、人間の尊厳と自由を守り、平和を創り出す運動団体である。私たちの助けを必要としている人たちが、すぐそばにいる。そばだけではなく世界中にいる。写真を見、本を読み、話を聞き、想像力を働かせよう。現地へ行って、感じてみよう。自分に与えられた力が何かを問いつ、それを生かし、それぞれの場所で活動することが必要だ。

YWCAの歴史をみると、そこには、何もないところから開拓していくパイオニア精神があった。またYWCAは、人々の拠りどころとなり、支えまた支えられてきた。そして、そこには、一緒に活動する友が多くいて、共に多くを学んできた。今も変わらず、そのように進んでいくYWCAであってほしい。一人ひとりが重荷を持って、(神戸YWCA会員・日本YWCA常任委員)



花を楽しめるカフェが始まりました
引きこもりがちな女性たちとつじつよに

昨年4月より横浜YWCA会館の1室で「精神保健福祉ボランティアグループ・かもめサポート」が活動しています。精神障がいをもつ女性やその家族の支援グループで、昨年度は「地域で共に生きるために」という連続講座をYWCAと共催しました。

6月17日には、YWCA会館内の、地域に開放したコミュニティスペース「わみゅ〜」を利用して「花を楽しめるカフェ」をYWCAとの協働事業として開始します。得意分野であるフラワーアレンジメントの展示販売や宅配の予約も受付中です。この「花を楽しめるカフェ」は当事者が支援者だけでなく多様な人との交流を持つこと、働

た時間に応じた報酬を得ること、自分の働きに自信を持つこと、無理して働かすぎないことを目的としています。現在はお茶の入れ方など着々と準備が進められています。
同じスペースを使って活動をしている横浜YWCAのプログラムであるシニアサロンや親子広場との緩やかなつながりも期待されています。政策上分断されがちなシニアや子育て中の女性・障がいを持つ女性などが自

然に出会える場となるべく、YWCAでもさまざまなイベントを開催し、共に生きる社会の実現に向かって少しずつ歩んでいきたいと願っています。
当面は毎週火・木曜日の午後のお茶です。ぜひ一度、花とお茶を楽しみに会館にお立ち寄りください。かもめサポートのホームページでもご案内を開設しますのでぜひご覧下さい。
横浜YWCA職員 小阪仁美



創立10周年を迎えて



4月29日、私たちの小さな弘前YWCAは鈴木信子日本YWCA理事長を迎えて、創立10周年記念の礼拝を献けることが出来ました。日本Y・函館Yの方々もかけつけて下さり、会員・参助会員、あわせて17名というささやかな集いではありますが、10年目という区切りの時を迎えたという感動に包まれた会でした。
北国のこの街に「YWCA」は本当に出来るのだろうか、と半信半疑の思いが、どうにか実現の運びとなつてから、いつもこれで良いのか、もう少し何とかならないかとの思いにきまわられていたような気も致します。月1度の礼拝を中心にした例会は憲法の学びと語り合いが精いっぱい、それぞれ忙しさを抱えられた方たちが、ともかくも10年細々ではあつても続けられたという思いが今、心に広がっています。発足より続いている

ハンダール講座には最近会員以外の2名が加りました。
継続は力なりということを感じ、また多くの方々の祈りと励ましを支えられ、これから北の街から「平和」の発信を続けていけたらと願っております。
今、都市と地方の格差が広がっており、弘前もシャッター通りが増えております。「YWCA」という名称の知名度も大都市と格差があるようで、西城秀樹の歌で知られた「YMCA」とよく間違われます。その都度MとWの違いの説明をし、ついでに活動内容を説明します。
今年の津軽は雪はそれ程多くはなかつたのですが低温が続いておりました。それが4月に入り急激に温度が上がり、梅も桜も花水もりんごの花も一せいに咲きました。そんな中で10周年記念礼拝でした。
弘前YWCA会長 宮本富恵

緊急：国際協力募金

ミャンマー(ビルマ)のサイクロン被災者救援

5月2日深夜から3日にかけて、ミャンマー(ビルマ)に超大型サイクロンが上陸し、国連は、死者は10万人を超え、被災者は160万~250万人になる恐れがあるとみえています(5月15日現在)。現地はこれから雨季に入るため、今後インフラの回復や医薬品の供給が遅れた場合には、家を失った人々の状況は更に悪化することが予想されます。
さまざまな難しい状況の中、ミャンマーYWCAは被災者救援活動を開始しました。Daw Aye KyweミャンマーYWCA総幹事は次のように語っています。「YWCAのプログラムに参加するデルタ地域の人々は、致命的な打撃を受けました。人々は家を失い、教会と周辺住民が提供する、湿り気の残るシェルターに非難しています。この地域でYWCAは、米・油・ろうそく・いわし・飲料水・塩・衣料品・食器類などを提供しています。ヤンゴンでは被災したストリート・チルドレンの支援も始めました。出来る限りのことをするのみです」。日本YWCAは「サイクロン被災者救援募金」を募ります。皆さまのご協力を心からお願いいたします。

中国四川省大地震被災者救援

5月12日中国四川省で大地震が発生し、中国政府は15日、被災者は1000万人を超え、四川省だけで死者が推計5万人以上に上ると発表しました。電気・通信および交通網などのインフラも壊滅的被害を受け、交通遮断による食料・飲料水の不足、医薬品確保の困難等、大変深刻な事態が発生しています。四川省にある成都YWCAが被災者救援活動を開始しています。金蔚(ジン・ウェイ)中国YWCA総幹事代行等も現地に入り、「成都YWCA農村学校および児童村(養護施設)の建物の一部が崩れ使用できない状況の中で、児童村の子どものためのケアをしています」との一報が入りました。(5月16日現在)。
日本YWCAは中国YWCAに協力し、「中国四川省大地震被災者救援募金」を募ります。皆様のご協力を心からお願ひ申し上げます。

- 緊急募金期間: 2008年5月16日(金)~7月31日(木)
●募金振込先: 郵便振替 00170-7-23723「日本キリスト教女子青年会」
*振込用紙の通信欄に、国際協力募金「ミャンマー(ビルマ)のサイクロン被災救援」あるいは「中国四川省大地震被災救援」とお書き下さい。

お問合せ先: 日本YWCA 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-8
Tel: 03-3264-0661 Fax: 03-3264-0663
E-mail: office-japan@ywca.or.jp
http://www.ywca.or.jp

- 「協力ありがとうございました」
賛助費(以下敬称略)
武内富貴代 実生律子
小野寺富子 高橋美佐子
野田澄子 岡野美和子
泉 和子
平和教育資金
武内富貴代 福島YWCA
国際コミュニケーションチーム
オリブの本木奈
難波郁江 市川一郎 武内富貴代
横尾和子 増尾悠天 信和ハウス
横田昌三 青木浩子 松崎知恵子
江副史子 大野綾子 村上美津子
庄子奏子 伊藤浩美 松本佳代子
高村桂子 永幸和実 田村三保子
松村和子 東 昉 神谷富子
富岡美知子 松山YWCA
国際協力募金、ケア暴動被害救援
大原YWCA 長崎YWCA
京都YWCA
国際協力募金「パレスチナYWCA」
A支援募金、永華和美
一般寄付 渡辺華
特別寄付 毛利寛子

9条世界会議に全国で3万人以上が参加 このウェブを世界に広げよう



9 条世界会議が盛況のうち幕張メッセで開かれた3日間の会議は感動の連続だった。初日の4日、全体会議の閉会時間が近づくとつれ延びる人の列。7000人の会場がどれだけでも満席という心配を反して1万2000人が詰めかけ、3000人が入場できなかった。油断してカフェテリアにいた私も、入場の直前で止められ満席を宣告された。幸い、案内された青空スペースでメインゲストであるマイレック・マクグワイヤン(北アイルランド/76年ノーベル平和賞受賞者)と、コーラ・ワイス(アメリカ/ハグ平和大使)のメッセージを間近で見ることができた。11面写真「コーラさんの「すべての国が憲法9条を持つべきだ」という力強い訴えに、集まった人たちの高まる熱気の中で感激を共有することができた。

主催者の予想をはるかに上回る入出に混乱は避けられなかったし、速くから時間をかけてバスを仕立ててやってきて会場に入らなかった人々には大変気の毒であったが、非武装の平和への思いが行動に表す人たちがこれだけ集まったことに胸が熱くなった。



4日夕刻からは、この会議の趣旨に賛同するUA(ウーア)や加藤登紀子などそれぞれメッセージを持った人気アーティスト競演によるライブコンサートがあり、幕張は夜遅くまで熱気に包まれた。



YWCAのワークショップにベティ・リアンさん(「平和教育国際学会」創設者/アメリカ)も参加。「日本の人たちが侵略戦争の反省に立って、今平和を築く努力をされていることを改めて知ることが出来ました」と語った。



「核のない地球@9条」頒布200円、「法文はヒラシマン」2015委員会まで

5月4日(6日)、幕張メッセ(千葉市)で開催された「9条世界会議」(主催「9条世界会議」日本実行委員会)には、約2万人を超える人たちが来訪、海外からの参加者は31の国・地域から150名以上にのぼりました。また5月5日の広島での集会には1100人、5月6日の仙台は2500人、大阪は8000人が参加し、9条世界会議は、3日間に全国でのべ3万人以上が参加し、憲法9条の「戦争放棄」の理念を世界に発信しました。

5 日は分科会である。日本文学賞では、子どもに伝える「核のない地球@9条」というテーマで被爆証言を中心にした音楽・映像・照明を駆使した参加型の朗読劇を英語の通訳を交えて行った。東京YWCAの劇グループや、日本YWCA「ひろしまを考える旅」メンバーほか多くの地域YWCAの協力を得て実現した。120部用意したシナリオが不足するほど参加者が集まり、一人ひとりの心に深く入り込むワークショップとなった。手作りの9条クッキーとお茶を飲みながら、気楽に参加できるけれど演出に工夫もあり楽しめたという感想も多かった。パネルディスカッションや、シンポジウム形式の多い企画の中で光っていたのではないだろうか。

6 日には、海外参加者や多くの国際団体や著名人の賛同を得て「9条を人類の共有財産として支持する国際運動をつくりあげ、武力によらない平和を地球規模で呼びかける」「戦争を廃絶するための9条世界宣言」を採択した。また、NPT(核不拡散条約)再検討準備委員会に対し「核兵器に依存しない安全保障」を求めた声明と、G8に対して「軍事費の大幅削減と平和・開発・環境への転換」を求めた声明を発表して会を閉じた。



「9条世界会議」のプレイベントとして、2月24日広島市の原爆ドーム前を出発、5月4日幕張についた「9条ピースウォーク」は、71日間、1200キロを歩きました。全行程を歩いた11名はじめ、のべ7000人以上が参加。年齢はベビーカーに乗った0才児から80歳以上の方まで、国籍も7カ国以上と、彩り豊かなウォークでした。YWCAも各地で出迎え、宿泊費を提供。また交流会を開催し、そして一緒に歩き歩きました。その一部をご紹介します。



出発から71日、5月4日幕張メッセに到着!

●横浜YWCAに宿泊
茅ヶ崎と一緒に歩いた平塚YWCAから横浜YWCAへとバトンタッチ。
4月28日には横浜港にピースボートの船が着き、約1000名が下船してピースウォークに合流。横浜YWCAではその日を閉館にして35名を受け入れ、29日には宿泊者のみなさんへ朝食をサービスしました。ウォーカーからは、YWCAに関する質問を受けたり、情報交換をしました。横浜YWCAを出発して、多摩川をこえるといよいよ東京です!

●5月1日東京YWCAで交流会
ピースウォークは5月1日(木)に東京YWCA会館に到着!カフマンホールを会場に、東京YWCA会員が手作りサンドイッチを持ち寄り交流会を開催しました。ピースウォーカー34人はじめ100人以上が参加。ウォーカーの話、イラク帰還兵のアッシュ・ウールソンさんの体験談等聞き、オプティマス(リベリア出身、ボストン在住)とエロック(プエルトリコ出身)の2人組「Foundation Movement」のヒップホップを楽しみ、このウォーク中にできた「輝け9条」を皆で歌い、幕張での再会を約束しました。

●広島出発! 翌2月26日は呉YWCAに宿泊
2月24日、9条ピースウォークのオープニングでは、広島YWCAグループ「夾竹桃の会」メンバー2名が「私は広島を証言する」(栗原貞子)を朗読。雪が降る寒い日、時に吹雪のような天気の中、オープニングには「夾竹桃」のメンバーと広島YWCA会員・会友が参加、またパレードにもメンバーを持って参加し、原爆ドームから広島駅前まで、9条の大切さを訴えながら歩きました。(広島YWCA 三木康代)
翌日、ウォーカー一行は呉YWCAに宿泊。出発の朝、呉YWCAのメンバーが作ったあたたかい味噌汁とご飯で、元気をつけて出発!

●京都では観光客の応援も受けながら
3月24日、京都YWCAは午後2時銀閣寺道に集合。今出川を東進して来たピースウォークに合流。途中愛犬も連れ出して来た会員も含め、各々のパナを掲げ、宗教・思想・国籍を越え、太鼓・ほら貝・ギターをかき鳴らし、老若男女、手を振りながらパレードしました。チランを手渡ししながら、外国からの観光客の応援も受け約1時間半、春風を感じつつ、総勢約100名で歩きました。連帯を感じながら、なぜ9条を守るのかをアピール出来たのではないのでしょうか。(京都YWCA 畠中隆子)

私の経験した 食生活の今昔から考えること



私は来年80歳になる。今までにどれほどの量の食べ物を食したであろう。大型トラック数台に積まれるほどの想像もつかない量に違いない。私を成長させた食糧不足の時代も飽食時代の今も、生命を支えてくれたこれらの食物、それに関わってきたおびただしい数の人々、そしてその上に立つてすべてをみそなわし給った神に心からの感謝を捧げたい。私の経験した食生活の変遷を顧み、現在の食事情を考えてみたい。

アジア太平洋戦争が終わる(1945年)まで日本人はほぼ「地産地消」の食生活だった。八百屋には種類は少ないが近郊で収穫された旬の野菜が並び、魚屋は天秤で肩から提げた桶にその朝近海で獲れた魚を入れ、各家の台所に夕方やってきて、そこではわたを抜きこしらえてくれた。干物の魚も佃煮も漬

物も保存のため非常に塩辛かったのでご飯は2杯も3杯もお代わりして食べた。水を入れた冷蔵庫はあまり信頼性がなかった。やけど、どんな食べ物も目がかびや色などを確認し、鼻で匂いをかぎ、舌でちよつとためて味を見て、安全性を確認するのだった。戦争末期と戦後の数年間、成長盛り期の私たちはひどい食糧難を経験し、真の空腹感も味わった。今は世界中から食材が日本に輸送されてくる。温室栽培で1年中どんな野菜も手に入る。世界各国の産地で瞬間冷凍された魚類・肉類がビニール袋にパックされたカウスターに並んでいる。効率的な大量生産で安価で食糧が供給される一方、高級食材をふんだんに使って加工されたぜいたくなグルメ食品が、高価な

値段でデバ地下に並ぶ。人々は印刷されている賞味期限の数字を信頼して、まだ十分食べられる食品さえ廃棄する。スリムな体型を保つため食事を残すことが奨励され、「コンビニやレストランでは多量の残飯が捨てられる。まさに昔は想像も出来なかった食の豊かさを人々が享受し、謳歌しているが、実は日本の食生活の将来に大きな危険と不安が起きているのである。

安い外国からの食材輸入に頼っている間にわが国の農業生産が縮小された。食糧自給率が39%に落ちた。減反や後継者不足により疲弊する農地、汚染によって狭められる漁場。今まで海外で安価に買っていた食糧がたやすく手に入らな

くなった状況に気がつかずに、お金さえ出せば安い食料が輸入できるから大丈夫、この豊かさが当たり前と思う安心感に人々は安住して前を向いてきた。穀類からバイオ燃料生産や、中国の需要拡大、石油価格の高騰などの国際的な需要動向によって、今まで優先的に、比較的安価に手に入った肉・魚・穀類などが既に大幅に値が上がりつつある。農作物を育てる水と土、水産物を獲るだけの資源の無駄と、CO2の排出があるのか、一度膨らんだ胃袋をめぐって将来争奪戦が強まる可能性さえ指摘されている。昔、私が子どもだった頃の食生活の貧しさ・非衛生さ・種類の少なさ、そして何よりも食糧不足の空腹の経験などを考えると昔にかえりたいとは思わない。しかし行き過ぎた現在の状況が問題なくよいとも思わない。

東京YWCA 郡 恭子



雨に父があるだろうか。露の玉はだれが生んだのか。(三浦記38章28節)

10数年前のある梅雨の日のこと。何とも言えない寂しさにつつまれながら寝床で心悲しく雨の音を聞いていました。

激しい雨の音で他の音は何一つ聞こえない朝、じっくりとその音に耳を傾けてみることにしました。すると不思議なことに、その音の一つひとつが私を励ましてくれる拍手に聞こえ始めたのです。多くの雨粒たちがみんな一緒になってがんばられて応援してくれているように感じました。

一つひとつの雨粒は地に落ちてしまったりなくなってしまうけれど、その瞬間に励ましを与えながら消えていく。その雨粒たちの優しさを想うとき、彼らを創られた偉大なお方の大きさに気づくのです。 彩ノエル(ロサンゼルス在住クリスチャンアーティスト)

北国札幌は、花々が一斉に咲き初め、暖かい5月3日を迎えようとしている。憲法の日には札幌中心街大通公園で憲法9条を守り戦争をしない国にするため、12の平和団体と共に今年もリレートークと、札幌YWCA定番の「勝利のぞみ」を道行く人々と歌う予定で、幕張の「9条世界会議」に参加するメンバーも一緒に歌詞カード製作やチラシなど準備に当たっている。

2003年、札幌YWCAはそれまでの憲法研究会を土台に8人のメンバーでピースアクション委員会を立ち上げ活動を始めた。当時は憲法調査会が発足、またアメリカの同時多発テロやアフガン親後攻撃などに呼応し、日本政府はテロ特措法・武力攻撃事態関連法などの有事法と戦争の出来る国作りを懸念だったの

で、私たちのしなければならぬことは山積していた。小森陽一さんの講演会後は「Yes,Godは会場として、毎月、地元での平和活動をしている識者・憲法学者を迎えての勉強会・反戦詩の朗読会やコンサート集会など小さな集会を数多くしてきた。

9の日行動 展開中②

母親の発案で子どもピースアクション「Pao」が誕生、身近な話題から子ども心に平和の種をまき土壌作りを願い、集まりをはじめた。チャリティバザーにはイラクの白血病児たちの絵を展示して子どもたちが来会者と呼びかけていた。また活動の中から「キルト

の私と手をつなぎませんか」の小さな呼びかけが全国に広がり、各地YWCAからのピースや「SEED」の子どもたちが作ったポンド張り

札幌YWCA 松本陽子